

協働事業評価シート

部課名	市民部 男女共同参画課	記入年月日	平成26年3月20日
記入団体名	NPO法人武蔵観研		

予算事業名	男女共同参画推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	----------	--

協働事業名称	男女共同参画情報紙発行		
協働事業の概要	<p>男女共同参画社会の形成を目指し社会的機運を醸成するため、男女共同参画に関する情報を幅広く提供し、意識改革への働きかけを積極的に行うことを目的とし、情報紙を発行する。</p> <p>男女共同参画情報紙発行 発行日：(38号)10月 (39号)3月 内 容：(38号)田部井淳子 どんどん歩いてください、 荻野吟子 日本初の女性医師 ほか (39号)川野幸夫 日本を元気にするパートナーさん、 川越市男女共同参画に関する意識調査から ほか 発行部数：各5,000部、配布対象：市民及び公共機関等</p>		
協働事業の決算額	610,000 円	委託額及び補助金額を記載	
事業の実施期間	平成25年7月3日 ~ 平成26年3月31日		

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	4	4
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	4	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	27.5点
------	-------



『男女共同参画紙
「イーブン」』
表紙及び内容（抜粋）

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

<p>【行政】 協働委託というのは、官民双方の意見交換が重要であり、受託者の会議や打ち合わせには積極的に参加し、信頼関係や共通理解を深めていくことが大切と思われる。 男女共同参画以外の分野で活躍している団体であり、新たな視点で情報紙を発行することができた。</p>
<p>【市民活動団体等】 この協働事業は、取材、インタビュー、撮影、原稿作成、編集、割付、用語の適否、またICT（情報通信技術）など高度の専門性と知識が必要な時代の最先端を行く事業であり、全国の関係者の知が結集できれば、成果はさらに高まると思われます。</p>

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	1名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	評価結果 B
B	7名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	1名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に転記

【事業に関するコメント】

・情報紙「イープン」の内容・編集については、高く評価はできない。田部井淳子に実際に取材をしたのかと聞きたくなるほど、記事はお粗末である。荻野吟子・生沢クノについての記事も、ケネディ大使の記事も、確固とした視点で書かれていない。前者は、どこかの資料からの抜書きで、二人を紹介するにとどまっている。このような情報紙を作るのに、なぜこのように大きな文字を使う必要があるのか。普通に読みやすい大きさの文字を使って、この倍の情報が盛り込める。（厳しい表現をするなら、内容がないから文字を大きくしているのかと言いたくなるし、田部井氏は、こんな記事を望んではいなかったと思う。この程度の予算で、この程度のページ数...という限られた中できちんとした編集方針を立て、内容の充実を考えるなら、表紙に、写真を大きく使い、目次のみというのも全く初歩的間違いである。情報紙を作るなら専門的な知識、経験を持つ人に委託すべきと思う。

・男女共同参画に関する市民の意識・機運を作り出すため、男女共同参画に関する情報を広く市民に提供することは重要である。今後、本事業がより大きな効果を上げるため、市民のどのような層に重点を置いて情報提供すべきか、どのような内容の情報を優先的・重点的に提供すべきかについて検討していただきたい。

・視点、内容の問題が課題として残った。今後、団体内での話し合いを深め、より一般的で有意義なものにして欲しい。

・インパクトのある表紙写真で多くの方が手にとられとても良かった。レイアウトやインタビュー写真もキレイで見やすかった。男女共同参画の広報紙としての「主張」があまり感じられなかった。39号が(4/6現在)届かないのは何故か。38号も遅れての発行だったので2回続くのは少し考えものです。

・情報紙として課題は多少あるが、関係者のお互いの理解を深めてこれからの期待。発行部数について多いのではないか。

・情報紙としては一般に広める事は大変良い事ではあるが配布部数が多いような気が致します。(どういう所に配布しているか教えて欲しいと思います。)

・男女共同参画に関する情報紙を発行する目的は達成できていると思います。気になったのは団体の特性がどのように活かされているのかわかりませんでした。もう少しその点が記入されていると評価しやすいと思いました。情報紙の内容も川越の企業の男女共同参画の現状などを載せれば公共サービスの的にも効果が出るのではないのでしょうか。

・事業目的の共有化が行政の評点が3であることは、双方の見解が多少ずれているように思う。

協働事業評価シート

部課名	こども未来部 こども育成課	記入年月日	平成25年12月14日
記入団体名	NPO法人川越子育てネットワーク		

予算事業名	青少年育成体制の充実	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	------------	--

協働事業名称	子育て体験学習		
協働事業の概要	<p>「命の力」「命のつながり」を話し伝えることで、自己肯定感を高め、自己と他者を大切に思う心を養う。乳幼児やその親とふれあい、生まれてきたことに喜びを感じてもらおう。 連続2コマの授業の中で、下記内容を実施する。</p> <p>赤ちゃんゲストと交流体験（20分）・妊婦体験（20分） 50分 いのちってすごい(公益社団法人誕生学協会認定講師による誕生学®講演)50分 アンケート（事後意識調査） 10分 実施校：市立中学校10校（高階、大東西、高階西、川越第一、名細、南古谷、霞ヶ関西、鯨井、砂、東） 実施学年：2年生（高階、川越第一）、3年生（その他）</p>		
協働事業の決算額	350,000	円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年10月3日（木）～11月7日（木）		

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	4	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34.5点
------	-------



「子育て体験学習」の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

市民活動団体においては、内容の検討や関係者への説明等を十分に行いながら事業を実施していただき、十分な成果を上げることができた。協働による実施により、市民活動団体の持つ高い専門性を活かすことができ、また行政と連携を図ることで相乗効果となり、効率的かつ効果的に事業を実施できたと思う。

今年度は10校で実施したが、年々実施希望校も増えており、次代を担う青少年の育成のため、より良い事業の実施に向けて今後とも検討を重ねたい。

【市民活動団体等】

協働での実施10校の枠に対して16校の希望があった。川越市22校の中で大多数の開催希望があったことは、多様な家庭環境の中、揺れ動く中学生にこの「子育て体験学習」が必要とされていることを改めて感じることができる。

今後はすべての希望校で開催できるよう、開催時期や内容の検討が必要である。

この事業は、こども育成課が中学校との連絡や各課との連携をとりまとめ、赤ちゃんや親とのつながりを持つ当団体が中学校へ訪問する親子の募集を行い開催したものであり、協働だからこそ成し得たものだと感じている。

4年目を迎えるこの事業で、父親のゲスト参加希望も増えていることは父親の育児参加にも刺激となるものである。

交流体験や誕生学から「自己肯定感」「命のつながり」を感じた中学生と、賛同し社会貢献できたと感じる親子の双方に良い結果をもたらした事業だと評価したい。

・協働での実施10校の枠に対して16校の希望があった。川越市22校の中で大多数の

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	10名	A
B		
C		
D		

【事業に関するコメント】

別紙に転記

【事業に関するコメント】

・このような事業を、行政が実施することは難しく、専門知識や経験豊かな市民が主体性をもって協力している協働事業にふさわしいものだと思う。少子化、核家族化で、赤ちゃんや老人と共に生活するどころか、触れ合うことすら少ない今の子どもたちに対し、「命」「他者へのやさしさ」「親への感謝」などを、身をもって体験させることの意味は大きく、素晴らしい事業であり、市内の全中学校で実施してほしい。実際に学校へ出向いてくれる親子を募集することは難しくはないのか……単に募集するのではなく、この事業の成果、中学生の感想なども、市報で報告することで、協力者を増やすことも可能になると思うし、この部分が、行政の力を必要とするところであろう。社会的にも、父親の育児への参加が多くなっているというが、終日の授業内での実施となると、勤め人の父親の参加は難しいと思われる。父子家庭の父親が、赤ちゃんを連れて参加してくれたらいいなと思うのだが。

・本事業は揺れ動く中学生に「子育て体験の学習」を通じ命の大切さ、不思議を知ってもらうことにあるが、参加した中学生の様子をみると始めは経験したことのない体験でとまどいをみせる者もいたが次第に命の大切さに思いを傾ける者が増えていた。市と団体との協働事業ということで参加する中学生も増えている。市は引き続き中学校に対し本事業への参加奨励に努めて欲しい。

・核家族化、人間の思いやりの欠如が問われる中で実に適切な事業であると評価する。

・中学生にとってとてもよい経験ができたと思います。「命の大切さ」が伝わるのではないかと。市内の中学校大多数が希望、残りの学校もぜひ希望して欲しいと思います。

・子育て体験学習の希望校も増えており、中学生に「子育て体験学習」を実施された事は「命の尊さ」を実感してもらう良い機会であり今後も引き続き継続してほしいと思います。

・一番の評価ポイントは協働事業だからこそ出来る事業だという点です。多数の部署、中学校、母子との連携はお互いの持つ特性を活かしたから成されたものだと感じました。また、事業目的だけでなくそこに協力した親子にとっても良い相乗効果が生まれる点もすばらしいと思いました。

協働事業評価シート

部課名	こども未来部 こども政策課	記入年月日	平成26年2月14日
記入団体名	NPO法人川越子育てネットワーク		

予算事業名	次世代育成支援対策行動計画推進等	新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/>
-------	------------------	--

協働事業名称	子育て情報誌作成		
協働事業の概要	子育て中の方やこれから子育てする方が安心して子育てができるよう、行政情報や母親たちの体験談等の子育てに役立つ情報を紹介するための情報誌を作成する。		
協働事業の決算額	97,000 円	委託額及び補助金額を記載	
事業の実施期間	平成25年7月4日 ~ 平成26年3月31日		

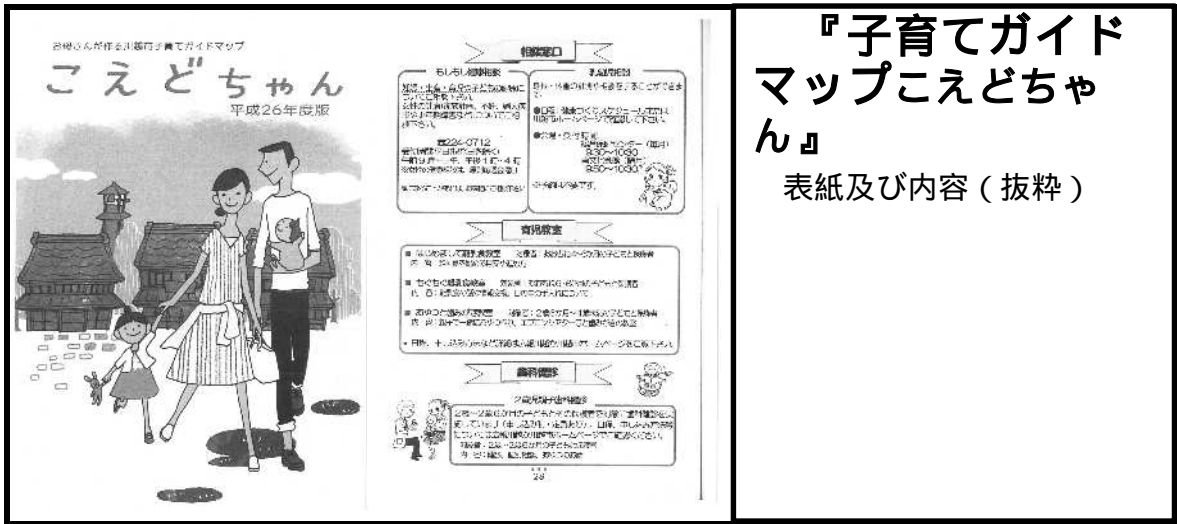
協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
 ・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	4	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34点
------	-----



『子育てガイド マップこえどちゃん』

表紙及び内容（抜粋）

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

当事業は、今回で12版目となる子育て情報誌の作成を行うもので、子育て中の母親と行政双方の視点からの子育て情報を掲載し、持ち運べる冊子として提供することで、子育てを支援するものである。

協働することで、市民ニーズに応えた情報を効果的かつ収集することができた。
次年度も市民活動団体と意見交換を行うことで、子育てに関する制度や情報の変化に伴った新しい情報を発信し、当情報誌の一層の充実を図りたい。

【市民活動団体等】

『こえどちゃん』は、今回で12版目となる子育て情報誌の初の協働事業で、行政情報のみならず、子育て世代のニーズに合った情報の掲載、いつでもどこでも持ち歩き活用できる情報誌の作成が目標であった。また製作にあたっては、母親の社会貢献の機会の創出という観点からも子育て当事者である母親を活用することも目標であった。（今回、協力してくれた母親は10名）

こども政策課には、当団体の特性を理解し、自主性を尊重していただき、相談にも随時応じていただけたことで、スムーズに業務を遂行でき目標を達成することができたことを感謝したい。

この事業によって、まさに行政と市民が一緒に作り上げた子育て情報誌になったと思う。子育てに関する施策や情報が変化する中で、毎年新しい情報を発信できるよう、また、もっと読み易く、子育ての役に立つ情報誌となるよう次年度も協議していきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	9名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	1名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C		当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に転記

【事業に関するコメント】

- ・子育て中の母親たちが協力して、この冊子を作ってきたことは称賛に値すると思う。子育て中だから見える街の問題点、必要とする情報、探している援助などがきめ細かく調べてられている。この冊子が、妊娠中、出産後の母親たちの手に渡れば喜ばれるはずであり、そのために8000部でいいのか、どこで、どの程度配布できたか、それが該当する人の何%に当たるかを知りたい。ただ、子育て中の母親はいずれ世代交代していくことになるはずであり、次々と引き受ける人の確保が重要かと思う。ここで活動した母親たちが、同じ組織の事業である「つどいの広場」とどうつながっているのかを知りたいと思う。広告集め、印刷所との交渉、配布などには行政の力が必要であり、うまく協働できているのだと思う
- ・「子育てガイドマップこえどちゃん」は持ち運べる小型の冊子で、内容も充実している。今後、子育てにおいてこのガイドマップがどのようなところで多く利活用されているか、子育てをしている又はこれから子育てをしようとしている若い母親等はどのような子育てに関する情報を求めているかについて検証し、この結果を踏まえガイドマップの制作を行って欲しい。
- ・非常に有意義な情報が取り上げられており、現実的に有用であると感じた。
- ・8000部の情報誌がどのようなところで配布されているのか気になります。
- ・子育てガイドマップ編集に大変ご苦労もあったと思う。多くの子育て中のお母さんに活用されることを望む。
- ・編集に当たり大変ご苦労だったと思います。多くの子育て中の親に読んでいただくよう望みます。
- ・出産後、育児に大変である時期に情報を集めることができない人が多いのでこのような川越の子育て情報からその他記載等の幅広い内容を1冊にまとめてあるものは、市民ニーズに思っています。また、体験談やイラストがある事で読みやすいものになっている。母親が社会貢献できる機会を作る点も評価したいと思います。
- ・こえどちゃんの冊子は大変良く出来ていました。内容も素晴らしいものでしたがこの冊子と配布を受けた人たちがどのくらい役立っているのかを報告書にあるとよいと思いました。
- ・賛助企業を得られたためと思われるが、少ない金額で大変よくできていると思う。
- ・内容も前回の版よりも進歩していると感じる。
- ・行政や民間の事業者も日々変化しているので、改訂版をタイムリーに提供できるシステムが在れば理想と思われる。

協働事業評価シート

部課名	こども未来部 こども育成課	記入年月日	平成26年2月20日
記入団体名	NPO法人川越子育てネットワーク		

予算事業名	地域子育て支援事業	新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-----------	-----------------------------	--

協働事業名称	子育て支援事業「つどいの広場」		
協働事業の概要	<p>「連雀町つどいの広場」の運営 0歳からおおむね3歳までの子とその親が、気軽に集い、交流を図ることで、子育ての悩みを相談したり、情報交換したりでき、互いに学び合い・助け合い・育ち合い、親子が成長する場を提供する「つどいの広場」の実施。</p> <p>場 所：川越市福祉サポート連雀町（2階） 開所日時：毎週月～金、午前10時から午後3時まで 第2土曜日 午前10時から午後0時まで 1日の利用者数 平均約30組、月1～2回の講座等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関する相談や支援 ・地域の子育て関連事業の提供 ・子育て支援に関する講習会の実施（絵本の読み聞かせ・手遊びの実演等） 		
協働事業の決算額	2,904,000 円	委託額及び補助金額を記載	
事業の実施期間	平成25年 4月 1日 ~ 平成26年 3月 31日		

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	4	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34.5点
------	-------



『子育て支援事業「つどいの広場」』の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

「つどいの広場」では、助産師、保育士、医師等専門家による相談も行っており、利用者である子育て中の保護者が悩みを気軽に相談できることから、大変好評を博している。
 また、利用者同士の子育てに関する悩みの共有ができ、リフレッシュが図れることから、平成24年度1日平均約20組から、25年度1日平均約30組と利用率が約5割増加している。
 また、父親の参加についても増えており、家庭内におけるワークシェアリングにも寄与していることが伺える。
 さらに団体では25年8月からアンケートを実施し、より利用実態に即したニーズ把握を実現できるようにしている。
 今後も、より地域に根差した、誰もが利用しやすいつどいの広場となるよう、市と団体とで更に意見交換をしながら事業を推進していきたい。

【市民活動団体等】

本事業の運営は6年目となる。月一回の土曜開室も定着し、多くの家族にご利用いただいている。今年の冬は数回の大雪があり、開室するも、だれも来ないのではないかとという日もあったが、わざわざ電話やブログ等で開室を確認して来てくださったり、こういう時だからこそ利用したいという声も聞くことができた。
 予約をとらないため、好評な講座等では多くの参加があるが、より多くの方にひろばを知っていただき、気軽に立ち寄れる場の存在をアピールするため、開催のしかたを工夫することで安全に運営することができた。
 月1回のミーティングや研修を通し、スタッフのスキルアップも意識したい。また、特に支援が必要だと思われる利用者への対応について、関係部署とのスムーズな連携を図っていけるよう、お互いに情報交換のできる関係づくりに努めたい。
 行政側には、施設面などの相談を聞き入れ、迅速な対応をしていただいた。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	9名	A
B	1名	
C		
D		

【事業に関するコメント】

別紙に転記

【事業に関するコメント】

- ・少子化、核家族化の今日、孤独に陥りやすい子育て中の母親たちのコミュニティとなる、このような場があることは素晴らしいと思う。平均一日に30組の親子が利用しているとのことだが、利用者の居住する地域はどうなっているのか、近くの人しか利用できないということはないのか...もし、そうであるなら、施設を増やすことは行政としてできるのか知りたい。また報告には出ていないが、NPOの構成メンバーに、どのように専門知識、資格を持った人がいるのか、そういう人がボランティアで活動しているのか、気になる。雪の日の開室のことにふれていたが、そのような場合の対応、事故を未然に防ぐためにも緊急時のことなどきちんとしておく必要がある。民間では、場所の確保が難しく、意図や力があってもできない、行政では運営が難しい、このような事業こそ協働にふさわしいと思う。
- ・本団体は「つどいの広場」に参加した親からの子育てに関する悩みや相談を受け付けているか、これらについて市は団体から通知を受け市の子育て施策企画や実施にどのように反映しているのか知りたい。
- ・こうした市民による気楽なつどいの場での学びは極めて現実的に有用なものが多い。継続して欲しい事業である。
- ・ノウハウをいかして、他地域でも、是非作ってもらいたい「広場」だと思います。
- ・月1回の「つどいの広場」の相談会になかなか参加できない人もいるのではないか。子育て中のお母さんの悩みを解消しているのは同じ子どもをもつ友人との相談ということ。「広場」を知らなかった人もいるので、できれば月2～3回の相談会は出来ないのか。(希望として)
- ・大変すばらしい事業だと思います。もっと他の地域にも広げて欲しいと思います。
- ・行政運営のつどいの広場と市民団体運営のものそれぞれに良さがあると思います。市民団体運営では迅速な対応ができる点やニーズに答える場の提供がしやすい事などを意識し、それを行っていると思いました。ただ、市内で1カ所しかないのが残念です。
- ・内容はほぼ満足できると思われる。ただし、経費の軽減を図りながら、市内の複数個所での開催を望みます。

協働事業評価シート

部課名	環境部 環境政策課
記入団体名	福原ファームクラブ

記入年月日	平成26年1月17日
-------	------------

予算事業名	環境基本計画推進
-------	----------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	かわごえエコツアー	
協働事業の概要	<p>「グリーンマップ」と、かわごえ環境ネット10周年記念誌「川越の自然」を活用しての環境スポット見学にプラスして事業所の環境への取り組みを見学する。市内の環境の現状と保全活動の大切さを学び自主的に環境活動に参加する人を増やすため趣旨に賛同した市民活動団体に協働委託して実施するものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日：平成25年11月27日（水） ・行程：川越市駅 武州ガス 耕福米田んぼ みなみかぜいきいき田んぼの会 東洋大学キャンパス 川越市駅 ・参加者：29名 	
協働事業の決算額	90,000 円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成25年11月27日	

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	5	4.5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	4	4.5

合計点数	34 点
------	------



『かわごえエコツアー』の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

協働事業は、それぞれの団体（民間・行政）が持っている利点や得意分野を活かした事業ができる制度であると考えております。

今回のエコツアーに関しましては、団体側が有している環境に関する知識やネットワーク、行政が有している広報力や市民からの認知度を一体化することによって、より高い次元での事業が実施できたものと考えております。

企画内容は、バランスよくバラエティに富んだ内容となっており、参加者からの感想をみても、質の高いよい事業が実施できたものと考えております。

【市民活動団体等】

今年は高速バス事故によるバス会社の淘汰的な動きが有り、バスの手配に悩まされました。しかし、川越市との長年の付き合いから市内業者が融通をきかせてくれ、開催に至りました。プラス、季節外れの台風による変更も可能になり、昨年のバス会社であれば「かわごえエコツアー」は開催出来ませんでした。これも協働事業であればこそと思いました。

アンケートの結果からは、企業訪問が「大人の社会見学」として人気なのがわかります。前年の反省から「環境活動入門」としてワークショップ的に「レンゲ蒔き」を企画していましたが、延期の為有志の体験になってしまったのが残念でした。

企業訪問（環境ネット会員）を組み込んだ環境活動入門のエコツアーとして、又企画したいと思います。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	7名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	2名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に転記

【事業に関するコメント】

・本市のように、住宅地・商業地・農業地域が共存し、しかも雑木林や緑地が年々宅地化されている地域にあっては、環境問題は、市民一人一人が関心を持たねばならないと思うが、この事業への参加者の少なさは、何を意味するのだろうか。内容を見ると、もっと参加者があってしかるべきものに思えるので、来年に向けて、どうすれば多くの参加者を得られるか検討が必要であろうと思う。市民グループで、「野焼き体験」をしているのをきいたことがあるが、そのようなところと協働できないか。ツアーの実施だけでなく、事前に講演会あるいは学習会を開いてPRすることもいいのではないか。ソフトは、団体の持つ豊富な経験でできそうなので、行政は、もっと予算を取ってでも多くの人の参加に向けて動いてほしい。

・本事業は環境保全の重要性に鑑み、環境保全の現場などの見学を通じて市民に環境保全の重要性について理解を深めてもらうとする取り組みである。事業の内容もバラエティーに富んだ良いものであり成果を挙げている。受託団体に教えてもらいたいのだが、この種の事業の評価において、その効果の測定の指標としてどのような指標をとるのが適切なのか。たとえば「ツアーの参加者数」が考えられるがどうもピッタリとした指標とは思えない。何か考えていることがあれば教えてもらいたい。

・環境問題が問われる中で市民の1人でも多くが、すべての地域の課題を認識するよいチャンスである。

・市内の自然環境に取り組む、そして環境の現状を知ること、個人では活動できないことです。すばらしい企画だと思います。

・自然の環境、雑木林、緑地等の現状を理解するために活動されることはすばらしいと思います。今後とも続けてもらいたいと思います。

・行政と団体が協力して行った事業であると思いましたが。気になったのは目的である自然環境保全の課題解決が成されたのかわからなかった。エコツアーをきっかけに保全活動につながる仕組み作りが必要なのではないかと思えます。今後期待しています。

・企画の内容は良いものに思う。しかしながら、天候等により日程が変更になったためか、参加者が少なく残念に思います。

・環境問題はこれからますます重要性が増すことを考えると、環境保全だけでなく、環境破壊、環境を元に戻すなど様々な観点が在り、それぞれについて企画をしてもよいと感じた。

協働事業評価シート

部課名	市民部 男女共同参画課	記入年月日	平成26年2月13日
記入団体名	川越市女性ネットワーク		

予算事業名	男女共同参画推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	----------	--

協働事業名称	男女共同参画市民フォーラム		
協働事業の概要	<p>男女共同参画の様々な問題に対して、専門的な知識を持った講師による講演会(2時間程度)等を1回開催。男女共同参画社会の実現を図るため、男女共同参画の正しい理解を深めるとともに意識啓発を行う。</p> <p>男女共同参画市民フォーラム 開催日：7月13日(土) 14:00~16:00 会場：川越駅東口多目的ホール 講師：福島 良一(埼玉学園大学教授人間学部教授) 内容：～“女だてら”を貫いた不屈の精神～「新島八重」 参加者数：185人(男性29人・女性156人)</p>		
協働事業の決算額	150,000 円	委託額及び補助金額を記載	
事業の実施期間	平成26年7月13日		

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
 ・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	4	4	4
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	5	5	5
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	32点
------	-----



「男女協働参画市民フォーラム」の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

- ・昨年同様、随意契約で実施団体を決定できたため、市民フォーラム事業実施までの時間的な余裕ができた。
- ・予算が少なく、集客力のある著名な講師を招くことは難しい。話題性のあるテーマで開催し対応している状況であり、次年度以降も企画に頼るところが大きい。

【市民活動団体等】

講演等に関しては、時流に乗って講師を選定することが、とても大事だということ、改めて思ったことだが、「男女共同参画」という視点からは、未来を見据えての活動もできたら、という感じもしている。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	5名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	4名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に転記

【事業に関するコメント】

・時期にあったテーマということもあって、多くの参加者を得られたのだと思う。残念ながら、いまだ男女共同参画は、啓蒙・意識啓発が必要という状況であり、このようなテーマで、その正しい理解を深めることは意義あることと思う。できることなら、もっと男性に参加してほしい。男女共同参画をより正しく理解してほしいのは、比較的、家族制度や地域活動、職場の人事などで固定観念を持っている50代、60代の男性であり、彼らをこのような会に参加させるにはどうしたらいいのか、これを今後、話し合ってもらいたいと思う。

・必要不可欠なテーマであり継続することも大切だと思う。難しい課題だとは思いますが可能な限り視点や内容の工夫などの努力が求められる。

・話題性があるテーマであったので結果的にはよかったと思う。講師を選ぶことは難しいことです。

・男女共同参画への意識啓発は必要だと思います。今回も引き続きの受託との事ですが前年からの改善点や新しく試みた事などあったのでしょうか。貴団体だからこそ成し得る部分がアピールできればもっと協働として行う意味が感じられると思います。今後に期待しています。

・行政からのコメントにもあるが、参加者の新規開拓、男性や若年層の参加者を増やすことが必要。男女共同参画事業は特に男性の参加者の増加と理解が得られないと拡張性が得にくいと思われる。

協働事業評価シート

部課名	市民部 男女共同参画課
記入団体名	川越市女性団体連絡協議会

記入年月日	平成26年2月13日
-------	------------

予算事業名	男女共同参画推進
-------	----------

新規 <input type="checkbox"/>	継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------------	--

協働事業名称	イーブンライフ in 川越	
協働事業の概要	イーブンライフ in 川越の開催 1.開催日 平成25年11月30日(土) 2.会場 川越市西文化会館 3.内容 講演 講師:天野和彦 (福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター) テーマ:「あの時避難所は・・・おだがいさまが支えた169日間」 ~女性専用スペースが生まれた理由(わけ)~ 4.来場者 223名	
協働事業の決算額	300,000 円	委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成26年11月30日	

協働の提案者	川越市からの提案	市民活動団体等からの提案	
協働の形態	補助・助成 実行委員会・協議会	共催 協働委託 事業協力	後援 情報交換・情報提供 企画・計画立案への参画

【協働事業評価について】

評価基準... ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
 ・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	市民活動団体等の自主性・自立性は尊重されましたか。	後	4	4	4
5	行政と市民活動団体等が対等な立場で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
6	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	4	4

合計点数	31.5点
------	-------



『イーブンライフ in 川越』の実施状況

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

- ・本年度の受託者は、協働委託の受託にあたり初めて競合する団体が現れたため、受託決定後は例年にも増して危機感を持って実施しなければという気持ちが伝わってきた。
- ・受託者団体の会長が急逝したことに動揺することなく、全員で力を合わせ見事に実施することができた。
- ・講演テーマも講師の講話自体も良かったと感じたので、もう少し来場者を多くしたかった。
- ・今後は、更に講師やテーマを厳選して、幅広い市民層の参加を促進していきたい。

【市民活動団体等】

1回2回と協働事業を行ってきました。
 今回は当協議会の会長が、事業半ばでご逝去されました。私たちが動揺しましたが会員同志一致団結し事業に取り組みました。
 今後の課題としては、より多くの一般市民の皆さんに啓発・啓蒙に努力していく必要があると思います。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			評価結果
A	5名	当該協働事業を実施したことで、具体的に公共サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものであった。	A
B	4名	当該協働事業について、課題はあるが、ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D		協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

別紙に転記

【事業に関するコメント】

- ・東日本の被災地および被災者については、さまざまな視点から、さまざまな問題点を取り上げる講演会が各地でおこなわれているが、今回のテーマが、「避難所の現実、そして女性の問題」にテーマを絞り、非常に興味深く、良い講演会であった。私自身も福島県飯館村の女性たちの活動を見聞してきたが、今後も、このようなピンポイントのテーマで講演会を続行させられれば、被災地の女性たちに連帯する女性団体としての実績を作ることができると思う。講演内容のことを考えると、もう少し時間があったらという不満もあり、コーラスはなくてもよかったかと思う。会場が分かりにくく（駅から遠く）、チラシなどに地図やアクセスの方法について書く親切さが欲しい。他の事業に関しても言えることだが、川越市内での会場へのアクセスは、行きたくても行けないという人を多く生んでいるように思う。何らかの対応を全体的に考えてほしい。
- ・テーマ名がメインタイトル「あの時避難所は...おたがいさまが支えた169日間」サブタイトル「～女性専用スペースが生まれた理由（わけ）」となっているが一方でA3版の平成25年度協働事業内容一覧では、「災害時における女性としての役割について」～男女共同参画の視点から地域を見直す～となっており、混乱している。
- ・「イーブンライフ」に関する市民の関心は高まってきている。その中での適切な内容であったと思う。
- ・当協議会の会長が事業半ばでご逝去されましたが会員同志が一致団結して無事に終了出来役員一同ほっとされた事と思います。これからも市民の皆さんが参加出来る講師、テーマを選んで欲しいと思います。
- ・行政と団体が協力し行った事業であったと思います。今後は、それをさらに活かし幅広い市民が関心を持つよう工夫していただきたいと思います。気になった点は保育が2歳以上となっていましたでしたが2歳未満の子を持つ親の参加はできないのでしょうか。
- ・地震・災害をテーマにすることは、ある意味でタイムリーな企画であったように思う。しかしながら、来場者が少なかった様に感じる。
- ・男女共同参画の企画であると、男性の数が極端に少ないことが多いが、今回の比率はどうであったか。
- ・男性の参加者を増やすための方法を考える必要性もあると思うのだが。